

農場ごとの安全宣言：日本 GAP 協会 放射能検査プログラム

ぐるなびとの協力によって実現した

福島県産農産物の販売支援活動について

日本 GAP 協会（理事長：木内博一）は、会員企業である株式会社ぐるなび（代表取締役社長：久保証一郎）と協力し、「農場ごとの安全宣言：日本 GAP 協会 放射能検査プログラム」に参加している福島県内の農場が生産する農産物販売の支援活動を始めましたので、ご案内致します。

「農場ごとの安全宣言：日本 GAP 協会 放射能検査プログラム」は、行政が行う地域ごとの安全宣言に加え、土から農産物まで農場ごとに検査をして、放射能に関する安全性を確認していく取り組みです。

福島県内の農場には、安全な農産物を生産・出荷しているにもかかわらず、福島県産であるということだけで販売に影響が出てしまい、いわゆる風評被害に悩んでいる農場があります。そこで当協会は株式会社ぐるなびに協力を依頼し、同社が持つ飲食店のネットワークを活用させてもらい、「福島県出身の店長やシェフ」がいる店を中心に本プログラムに合格した農場を紹介する活動を 11 月から行っています。

この活動により、安全性がしっかり確認された農産物を外食店・消費者に届け、また同時に、福島県の農産物の販売支援を通して東日本大震災の復興支援に貢献できると考えております。

■ 「農場ごとの安全宣言：日本 GAP 協会 放射能検査プログラム」

日本 GAP 協会ホームページ (<http://jgap.jp/>) を参照下さい。

■ 株式会社ぐるなび → <http://www.gnavi.co.jp/>

窓口：日本 GAP 協会 武田 Tel 03-5215-1112 / 090-6177-2514 E-mail: info@jgap.jp

(電話またはメール頂ければ回答致します)

取材を希望

御社名 _____ 部署名 _____ 御名前 _____

住所 _____ 電話番号 _____

農場ごとの安全宣言

行政が行う地域ごとの安全宣言に加えて「一歩先の安心感を消費者に」

日本GAP協会 放射能検査プログラム

ステップ1: 農場にホットスポットは無いかな?

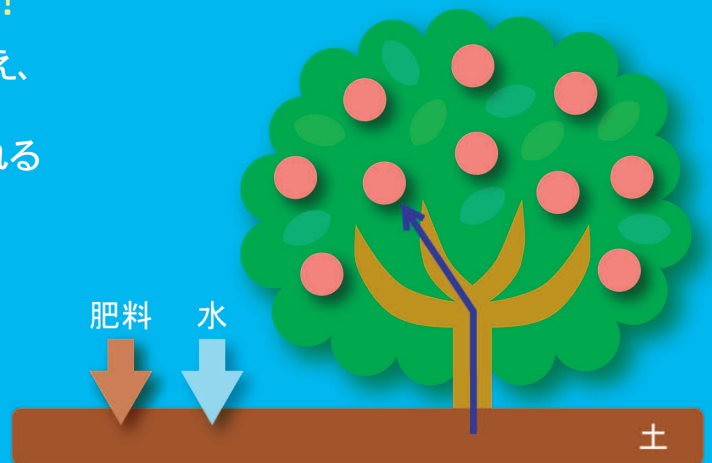
線量計を持って田畑の放射線量を現場でチェックしていきます。
放射線量が特に高い田畑が無いか、探します。



ステップ2: 農場の土は大丈夫かな?

ステップ1のホットスポット調査の結果をふまえ、土の精密検査をします。
土を調べることで、そこで育つ農産物に含まれる放射性物質の目安を知ることができます。

土→農産物 移行率の例(セシウム)
ホウレンソウ 0.00054、トマト 0.0007
サツマイモ 0.033、りんご 0.001
※農林水産省発表による



ステップ3: 収穫された農産物は大丈夫かな?

出荷する農産物を抜きとって、放射能をチェックします。
食品の暫定規制値を超えていないか確認することが目的です。

*国の暫定規制値500Bq/kgよりも低い基準値を設定して、上記のプログラムを実施することも可能です。
日本GAP協会まで、ご相談下さい。



Ge半導体分析装置またはシンチレーションスペクトロメータを使用

ステップ4: 合格農場の判断

全てのステップを通して安全性が確認された場合、その農場を「合格農場」としてマークを発行しています。



日本GAP協会
放射能検査プログラム

合格
農場

放射能だけではなく、残留農薬や食中毒や異物混入等まで管理された農場は「JGAP認証農場」として認証されています。詳しくはJGAPのホームページをご覧ください。▶ [JGAP](#) [検索](#)

【お問合せ先】日本GAP協会 電話:03-5215-1112 E-mail:info@jgap.jp 放射能検査プログラム担当